広尾東ファンクラブ活動報告書

山本春香（社会デザイン系 3 回生）

キーワード：農村，伝統行事，地域活性化

1. 団体概要

広尾東ファンクラブは,愛する加古川市広尾東地区の農村を舞台に「地域活性化」とは何かを考え，地域が抱える課題解決に向けて,実践活動を行う学生団体である。2024 年 12 月にメンバー3 名で発足した。その後広尾東の地域の方々や自治会，志方東営農組合との連携のもと活動を進める。2025 年 6 月には兵庫青少年本部活動支援部の「令和 7 年度 SDGsHYOGO 青年チャレンジ事業」に参加し，頂いた助成金や兵庫県立内外の学生団体との交流から得た知見を生かしながら活動を躍進している。2026 年 1 月現在 13 名のメンバーに加え，よりワクワクする広尾東づくりを目的に活動中である。

2. 2025 年度の活動テーマと実績

2.1 活動テーマ

広尾東地区も現代の多くの農村が抱えるように，高齢化や過疎化が進んでいる。その現状で，地域内外の交流の減少が地域課題の一つに挙げられる。2025 年度はこの課題に解決すべく，交流が生まれやすいイベントの場である地域の「祭り」に焦点を当て活動に取り組んできた。広尾東私たちが関わったのは 4 月の菜の花祭り，8 月の夏祭り，10 月のコスモス祭りの 3 つの祭りである（写真 1，2）。

私たちは，まず地域の方を対象に「お祭り」に対するヒアリングを行った。今まで各構成メンバーが築いてきたコミュニケーション能力を活かし，祭りに対する思いや悩みを言語化してもらった。高齢化が進む中で祭りに運営に負担を感じていること，毎年同じことの繰り返しでマンネリ化を感じていること，地域内外の交流の場としてより対話が生まれる場にしたい，などの悩みや課題が聞かれた。

それと同時に,地域の魅力を発信してきた誇り，他出子弟（広尾東地区から離れて暮らしているご家族の方）が帰省し，地域に目を向けてくれる機会として大切にしていきたい。協力して祭りを運営することで，地域内の一体感を高めてきたといった祭りへの思いも受け取ることができた。

そこで私たち学生が，これらの祭りをより持続的で画期的なものにするためには何ができるのかを検討し，地域の役員会や婦人会，営農組合と話し合いながら学生企画として新たなアプローチを試みた。

2.2 活動の実績

ここからは 3 つの大きな取り組みを紹介する

1 つ目は，夏祭りにおける学生企画である。具体的には「盆踊りの練習会（写真 3)」「大声大会（写真 4)」「綿あめクイズ」を実施した。「綿あめクイズ」では，他出子弟の方々，他地域から祭りに訪れた方々を対象に，より広尾東について知ってもらうための地域クイズを作成した。「広尾東地

写真 1　コスモス祭りの様子

写真 2　夏祭りの様子

写真 3　盆踊りの練習会の様子

写真 4　大声大会の様子

区にはいくつのため池があるか？」「広尾東の特産米や特産はちみつの名前は何か？」と地域の自然や農業をテーマにクイズを実施。地域の方々に聞き込み可能という形で，自然に交流と地域理解を深められる流れをつくった。夏祭り，コスモス祭りともにクイズを行い，150 名ほどの方に回答してもらうことができた。

2 つ目は公民館での宿泊である。公民館の多様な活用方法を模索すること，一晩仲間と過ごすことで学生自身が地域に愛着を持つこと，祭り翌日早朝からの片付け作業を行うことを目的に 15 名の学生で公民館に宿泊した。

3 つ目は写真展の実施である。一年間の活動，学生と地域住民との交流の写真を地域の憩いの場に展示した。地域内外の交流の促進を地域の方々に実感していただくことができた。写真の前で生まれた会話を来年の活動の発展につなげたい。

3. 活動を通して学んだこと

活動を通して学んだことは，交流づくりの難しさと達成感である。

写真 5　地域住民と学生の交流の様子

今回力を入れたお祭りの学生企画では意図的に人の交流を生み出す意図があった。しかし，事前の告知不足で参加者が集まらない。クイズは対象としている年齢には難しすぎる。“学生の視点で“とうたっているのに，新規性のない提案で地域住民に却下されるなどたくさんのうまくいかない場面があった。ターゲットの行動を想定したうえで，企画を立て，遂行していくことの難しさを感じた。

一方で，私たち学生の寄与によって，より素晴らしい盛り上がりを感じる祭りになったことも実感できてとてもやりがいを感じた（写真 5）」。成功失敗に関係なく，私たちが広尾東を思い，準備してきたことを受け止めて，評価し，感謝してくれた地域の方々の顔を見た時に一番の高揚感を感じた。祭りの最後にたくさんの住民の方々と他出子弟の方々と仲間の学生の笑顔に囲まれたあの時間は私にとって忘れがたい宝物である。

4. 今後の展望

ここまで，「祭り，祭り」と言ってきたが，お祭りは広尾東の方々が過ごす日々のごく一部に過ぎない。また，そのお祭りは地域住民の方々の日常の延長線上にあるものである。そこでお祭りというイベントごとをきっかけに，もっと地域の方々の日常と普段の農業に近づいていきたいと考えている。

例えば，菜の花祭りやコスモス祭りの前後の種まきや祭り後に肥料として花を畑にすき込んで行く場面，夏祭り前後の他出子弟の方々はどのように過ごされているのかなどに少しずつ知っていくことで，より本質的な過疎化する広尾東が抱える課題へのアプローチに近づいていきたい。